

食糧支援 ニュースレター



World Food Programme

TOPICS

- ハイチ大地震
一命を守り、新たな明日を支えるためにー
- フィリピン台風 WFPオフィシャルサポーター
知花くらさんが被災地を訪問
- 遺産や財産のご寄付をお考えの方々へ
皆様の特別な想いで食糧と希望を届けます。
- 私たちのWFP支援 株式会社真誠
- 「ウォーク・ザ・ワールド〜地球のハラベコを救え。〜」
参加者募集
- 国連WFP協会 2009年度寄付実績報告

ハイチ大地震 ー命を守り、新たな明日を支えるためにー



©WFP/David Orr

震源近郊の街、レオガンで行われた最初の食糧配給でWFPの高カロリービスケットを手にする女の子。

1月12日、マグニチュード7の大地震が中南米の国、ハイチを襲いました。この地震は、ハイチの過去200年の史上最悪といわれ、多数の人々が被災しました。ハイチは地震発生以前から、慢性的貧困、政情不安、ハリケーンなどの影響で、190万人が飢えに苦しんでいました。この度の大地震はそれに大きな追い打ちをかけたのです。

WFPの歴史で最も難しい支援活動

WFPは地震発生の翌日には最初の食糧配給を実施。その後も迅速に支援規模を拡大させ、2月末までに430万人以上へ食糧を配給しました。被災地を視察したシーランWFP事務局長は、支援活動に欠かせない交通インフラが壊滅状態であることから、ハイチでの支援は「WFPの歴史上、最も難しい支援活動」であると語りました。そして1月末頃には、首都ポルトープランスに16カ所の食糧配給所を設置。最も支援が必要な家庭を選定し、コメなどの食糧と交換できるクーポン券を配布、効率的に食糧を行き渡らせるよう工夫しながら支援を展開しました。また、高カロリービスケットなどの非常食の配給を経て、ハイチの人々が主食とするコメなどの配給へ移行することで、きめ細かい支

援を行っています。さらに、多くの学校で学校給食が再開しています。これに加え、WFPは5歳以下の子ども、妊婦や授乳中の母親を対象に、栄養価の高いピーナッツペーストや高カロリービスケットを配布し、栄養不足の予防に取り組んでいます。これは、乳幼児にとって、身体と頭脳の発育のために栄養バランスの取れた食事が必須で、特に現在のような緊急時では栄養状態が悪化しやすいからです。

復興へ向けて

今後WFPはハイチでの支援を、食糧を大規模に行き渡らせるための緊急支援から、中長期的な視野に立った復興支援活動へ徐々に移行していく計画です。3月には最も支援が必要な人々を選定することで支援の的をしぼり、およそ250万人へ食糧支援を行う予定です。具体的には、生命維持、栄養強化のための食糧支援に加え、がれきの除去、インフラ整備などのプロジェクトへ参加した人々に労働の対価として食糧を配給し、また子どもたちには学校給食を通して支援していきます。さらにWFPは輸送活動、緊急通信網のリード機関としての役割も担っているため、ハイチにおけるWFPの責任は重大です。

ハイチの支援に対し国際社会からは多額の支援が寄せられ、日本政府は900万ドルを拠出しました。しかし、被害の規模が極めて大きいことから、WFPは今年6月までとしていた支援計画を12月末まで延長することに決定。これには、当初の予算をはるかに超える520億円(5.85億ドル)が必要となる見込みです。ハイチの復興は始まったばかりです。ハイチの人々が希望を持ち、明るい未来を見出せるよう、皆さまの温かいご支援をよろしく願いいたします。

ハイチ大地震緊急・復興支援募金にご協力ください ゆうちょ銀行から

口座番号：00290-8-37418 加入者名：国連WFP協会
※通信欄に「ハイチ」とご記入下さい。
※その他の募金方法はホームページ www.wfp.org/jp をご確認くださいか、国連WFP協会にお問い合わせ下さい。(☎0120-496-819 月曜～金曜(祝日除く)9:30～17:30 ※携帯電話・PHSからもつながります。)

フィリピン台風 WFP オフィシャルサポーター 知花くららさんが被災地を訪問

フィリピンは昨年、台風 16 号（現地名「オンドイ」）、17 号（現地名「ベペン」）など大型台風の直撃を相次いで受け、過去 40 年で最悪の記録的豪雨に見舞われました。台風襲来から 2 ヶ月半がたった 12 月、WFP オフィシャルサポーターの知花くららさんが被災地を訪問しました。

WFP はフィリピンの台風被災者 150 万人に、今年の 6 月まで食糧支援を行う予定です。知花さんの訪問時には、支援対象者に選ばれた被災者に食糧を配る「緊急食糧支援」を行っていましたが、今後は、被災者の自立を支援する「復興支援」を実施。具体的には、生活基盤の修復や再建設などの公共工事を計画、その工事に参加し働くことを条件に食糧を配給します。こうした取組みにより、人々が食糧支援に依存することを防ぐと共に、生活基盤を再建し、自立を支援していくのです。この支援計画にはおよそ 50 億円が必要とされていますが、必要額の半分ほどしか集まっていないのが現状です。1 日およそ 40 円あれば、被災者一人の一日分の食糧をまかなうことができます。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



ザンバレス州ポトラン。ここは、1991 年に大噴火した山のふもとにあり、当時から大量の火山灰が堆積していました。そこに昨年大型台風が相次いで襲来。雨は大量の火山灰と混ざり合い泥流となって押し寄せ、川は氾濫、街は壊滅的な被害を受けました。



ポトランの避難所では被災した子どもたちが心のショックをケアするため、絵を描いていました。子どもたちが描いた絵をもらう知花さん。



屋根が飛ばされ、泥流で埋まってしまった家屋。村全体が、まるで砂浜のように、乾いた砂状の火山灰に覆われています。



リサール州タイタイ。ここは街の 6 割以上が冠水し、衛生状況が懸念されています。訪問時には洪水から 2 ヶ月たったにも関わらず、まだ水が引かない場所も。



避難所に身を寄せているポトランの人々。WFP は、こうした人々へ、高カロリービスケットや魚缶、コメ、植物油を配給。写真左は日本からの支援で購入したコメが入った袋。



タイタイにて被災者と交流する知花さん。知花さんは「人々が元の生活に戻っていく姿を見たいです。」と話し、支援をよびかけています。

©M.Kuroyanagi

知花くららさんのメッセージ

現状は想像以上に酷いものでした。汚水を媒介した感染症で足がただれてしまった男子、洪水で家が流された家族。台風 16 号（オンドイ）のニュースから数カ月経った今も、人々が苦しんでいます。“It's not over yet.” そう実感すると同時に、今まで現実を知らずにいた自分が恥ずかしくなりました。人々の復興への活力、笑顔が 1 日も早く見たくて、こういう場をお借りして皆様にお伝えすることが今の私にできることと考えています。皆様がフィリピンの現状にご関心を寄せて下されば幸いです。

知花くらら

フィリピン支援募金にご協力ください

ゆうちょ銀行から 口座番号：00290-8-37418 加入者名：国連 WFP 協会 ※通信欄に「フィリピン」とご記入下さい。

遺産や財産のご寄付をお考えの方々へ 皆様の特別な想いで食糧と希望を届けます。

WFPでは、大切な方のご意志により引き継がれたご遺産、皆様が築き上げられた大切な財産を、WFPを通じて、苦しい状況下に暮らす人々のより安心できる未来のためにご活用いただけることを願っております。ご厚志による食糧の確保で飢えに苦しむ人々の生きるための糧が約束され、人々が将来に対する希望とともに生活を送れるようになります。



子どもたちの未来を教育で保証します。



皆様の特別な想いが大きな力になります。

遺贈によるご寄付

遺言を通じて、財産の全部または一部を「遺贈」としてご寄付いただくことができます。認定 NPO 法人である国連 WFP 協会へ遺贈される財産は、相続財産から除外されるため、相続税がかかりません。

相続財産のご寄付

相続された財産をご寄付いただくことができます。相続税申告期限内の、認定 NPO 法人である国連 WFP 協会へのご寄付には、相続税がかかりません。

お香典のご寄付

故人に寄せられたお香典に対するお返しをされる代わりにご寄付いただくことができます。ご寄付後、挨拶状に同封いただくお礼状カードまたは、お礼状の文面・様式を電子情報のかたちでお渡しいたします。

詳細をまとめた冊子がございます。ご関心をお持ちの方はどうぞ国連 WFP 協会（☎0120-496-819 月曜～金曜（祝日を除く）9:30～17:30）までご連絡ください。

私たちの WFP 支援 株式会社真誠

ゴマ製品を販売する株式会社真誠では、2009年8月1日から2010年1月31日までの半年間にわたり、対象商品14アイテム一袋の購入につき1円がWFPへ寄付される「WFP食糧支援キャンペーン～子どもたちに、食糧と未来を～」を展開しました。

富田社長は、「ゴマの生産地の一つであるミャンマーを仕事で訪問した際、厳しい環境にある子どもたちの現状を知り、日本の子どもたちのように食べられる喜びと、学ぶ幸せを届けたいという思いを抱きました。少しでも多くの子どもたちに学校給食が届けられる手助けをしたいと思い、キャンペーンを実施しました。ミャンマーの子どもたちに給食と未来を届けることができるととても嬉しく思います。」と語りました。

同キャンペーンを通じて集まった寄付の総額は9,350,462円にのぼり、WFPがミャンマーで行う「学校給食プログラム」に役立てられます。同社にはキャンペーンに賛同しチャリティ商品を購入した多くの方々から応援メッセージ

が寄せられ、キャンペーンは好評にて終了しました。

株式会社真誠は2007年以来、WFP生徒作文コンクールへの協賛をはじめ、WFPの活動を幅広く支援しています。この度のハイチ大地震に対しても、社員の皆様からの募金とあわせて寄付の協力をいただきました。



ゴマの販売で学校給食プログラムに寄与

©真誠



昨年イベントの様子

子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティー・ウォーク「ウォーク・ザ・ワールド～地球のハラペコを救え～」を6月6日(日)に開催します。これは、世界で多くの子どもたちを苦しめている飢餓問題への認識を高めるとともに、参加費の一部を募金することを目的としたイベントです。学校で教育を受けることによって、より良い未来を手に入れたいと願う途上国の子どもたち。長い道のりを空腹のまま裸足で歩いて学校に通う彼らの姿をヒントに「ウォーク・ザ・ワールド」がスタートしました。集まった募金は、子どもたちの健全な発育と就学率の向上を目指す「学校給食プログラム」に役立てられます。

当日は、横浜ベイエリアや横浜を代表する赤れんが倉庫、山下公園などを歩きます。今年で6回目となる「ウォーク・ザ・ワールド」は、世界各国で行われているイベントです。昨年は70カ国で実施され、30万人以上が参加。日本では3,130人が参加しました。どうぞ奮ってご参加ください。

実施概要

開催日：2010年6月6日(日)
 時間：受付 9:00～、開会式 9:30～、
 スタート 10:00(10kmコース) / 10:30(5kmコース)
 ※各コース定員2,000人
 開催地：横浜みなとみらい地区(会場：臨港パーク)
 参加費：1,000円(500円募金・参加賞・保険を含む。
 ※当日参加は1,500円。)
 小学生未満は無料(但し、
 参加賞・保険は無し。)



給食を楽しみに小さな素足で長時間を歩いて学校に通う子どもたち。

【申し込み方法】

①インターネットによる申し込み

<http://www.sportsentry.ne.jp/event.php?tid=21480>
 (携帯電話からのアクセスも可)

②電話による申し込み

0570-037-846(平日10:00～17:30、通話料は利用者負担)
 ※申し込みは5月19日(水)まで。定員になり次第締め切ります。

申し込みに関する問い合わせ先

☎ 0120-711-951 (平日10:00～17:30)

国連 WFP 協会 2009 年度寄付実績報告

2009年度(2009年1月～12月)に国連WFP協会に寄せられた企業・団体、個人からの現金でのご寄付は、合計で469,577,993円となりました。

「平素から皆様方にはWFPの活動に対し深いご理解と多大なご支援を賜り誠にありがとうございます。世界経済の低迷や、途上国で続く食糧価格の高騰で、世界の飢餓人口は史上初めて10億人を突破しました。一方で、途上国への食糧支援量は過去20年間で最低レベルにまで落ち込むなど、厳しい事態にあります。苦しい状況下に暮らす人々が、将来に希望を持って生活を送れますよう、引き続き皆様のご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。」と、国連WFP協会専務理事田邊邦典は述べています。

皆様からお預かりしたご寄付のうち351,013,109円は、既にWFPローマ本部に送金し、各国で行われているWFPのプロジェクトに活用させていただいております^{注)}。詳しいご寄付の用途とその成果についてはホームページ(www.wfp.org/jp)に随時レポートを掲載いたしますので、是非ご覧ください。

注) お預かりしたご寄付の75%以上はWFPローマ本部に送金され、開発途上国での人道支援活動に活用されます。また、ご寄付の25%の範囲内で、国内での募金活動、広報宣伝費、管理費等の運営経費に充当しております。なお、2009年度に寄せられたご寄付469,577,993円の75%金額352,183,495円と上記送金額351,013,109円との差額は、後日WFPローマ本部へ送金いたします。

WFP 国連世界食糧計画日本事務所

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6階
www.wfp.org/jp

国連 WFP 協会

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6階
 TEL. 0120-496-819 月曜～金曜(祝日を除く)9:30～17:30
 FAX. 045-221-2534
www.wfp.org/jp